

# 漁業の活性化を目指して 活ハマまつり初開催



バルーンアート



マグロ試食



イカ飯早食い 男子



イカ飯早食い 女子

昨年度結成した中泊活ハマクラブが、9月14日(日)小泊漁協前お祭り広場で活ハマまつりを開催しました。まつりには、新鮮な魚介類などを求め多くの来場者が訪れました。

まつり開会では、同クラブの小林代表が「活ハマまつりは、漁師や漁協などの若手たちが漁業の活性化と、この小泊をアピールしたいと企画したものです。会場のみなさんも一緒にまつりを盛り上げていきましょう」とあいさつ。続いて来賓として小野町長が「活ハマクラブが発足して初のイベントであり、若者たちがこのように頑張っている。町も地域のみなさんと一緒になって応援していきたい」と激励しました。

ステージでは、地元夢幻天舞のよさこい演舞を皮切りにバルーンアート・マジック・ジャグリングショーと子どもや大人も楽しめる催しを用意しました。

また、イカ釣り体験では、釣った真イカを漁協婦人部のみなさんが刺身にするサービスがあり、味覚も楽しみました。

目玉イベントのひとつ、イカ飯早食い競争には、大食い自慢の男女各10人が参加。イカ飯20個を10分でどれだけ食べられるかで争いました。男子は最高で13個、女子は9個という結果となりました。

参加者は「おいしいが、思ったより食べられなかった。しばらくイカは食べなくていい」と笑いながら話していました。

もう一つの目玉である本マグロ解体ショーでは、43kgの地元産マグロが登場。格安で提供された即売会はあっという間に売り切れとなりました。

来場者へ感謝を込めて行われた振る舞いでは、小泊・下前漁協婦人部の海鮮お好み焼き・ホッケのつみれ汁が各300食用意され、長蛇の列となりました。

またこの日は、こども新鮮朝市も開催されました。朝に水揚げされた魚介類や手づくり商品の販売などが行われ、来場者は買い物を楽しみました。

まつりを終え、クラブメンバーたちは、「多くの来場があり、ありがたい。来年も企画したい」と話していました。



マグロ解体



振る舞い



活イカ釣り体験

